

# 水 トラスト ニュース

Jun. 2004 vol. 10

## contents

御嵩町の現在	… 1
ヤマセミのひとりごと	… 2
水源の森・みたけから	… 3
祖国ビルマの森	… 4
木曾川流域で今起きていること	… 7

# 御嵩町の現在

## 可児市との合併協議打ち切り

小西和子

可児・兼山・御嵩の1市2町合併は、可児市長から合併協議打ち切りの提案があり、御嵩町はこれまで通り自主自立の道を行くことになりました。が、可児市に隣接している伏見地区だけが可児市に合併したいと産廃計画推進派の議員が動き出しました。懲りないことです。また、御嵩町の北隣の兼山町は改めて可児市との合併協議を始めました。

鳥取県知事が「総務省ももうこんな下品なこと（アメとムチで合併を推進すること）はおやめになったらいかがでしょうか」と発言しておられるのをテレビで観ました。拍手喝采！  
カッコイイゾ片山知事！

（こにし かずこ 御嵩町内でフェアトレー  
ドの店を経営）



可児市と兼山町の飛び地合併の協議が開始された同じ日、高山市を含む10市町村の合併の調印がされました。日本最大面積の市が誕生します。その中には、大野郡の久々野町や朝日町など木曾川の最大支流飛騨川の源流域の町村が含まれます。

でも待ってください、そう、高山市は日本海に注ぐ神通川の上流なんですよ。つまり分水嶺を越えた合併というわけです。これまでも、旧高鷲村（現郡上市）内に分水嶺がある例はありますが、なんで飛騨川の水源を向こうに取ら

## ヤマセミの ひとりごと

れてしまうのか。4月に誕生した下呂市が、なぜ大事な清流飛騨川の水源をムザムザ手放してしまったのか。経済効果だけに目が行き、流域の人々の生活や文化を無視した合併騒動の象徴のような出来事です。御嵩町における小和沢の位置にちよつと似ているようです。



## 水源の森・みたけから



森開きからこの秋で5年になります。間伐材を使った丸太小屋づくりもやっと雨宿りができるところまでできました。

2004年度の森の活動予定は以下のとおりです。

### 水源林の保護育成事業 「水源の森・みたけ」における活動

- 2004年 4月10日 「春を食べようよ」と題し、食べられる山野草の採取、  
観察、調理法の紹
- 5月 8日 間伐作業 壁材の確保
- 6月12日 同上
- 7月10日 作業小屋建設のための大工仕事 壁
- 9月11日 同上
- 10月 9日 散策道整備 小屋周辺の整備
- 11月13日 「素人のための林業体験塾」～木とのふれあい～  
間伐、枝打ち作業 丸太を使った椅子や花台づくり  
きのこ狩りなど
- 12月11日 作業小屋建設のための大工仕事 壁
- 2005年 1月 8日 間伐、枝打ち作業
- 2月12日 同上
- 3月12日 同上

## 祖国ビルマの森

私は、1962年にビルマのモン州のモールメインで生まれ、ビルマの少数民族のモン族です。1985年にラングーン大学森林学専攻を卒業しました。1986年にForest Department / Plantation Officer (森林局) に就職し、二年間勤務しました。

この二年間のことから話します。私の勤務地は、ビルマ中部タンウ州の支所の管轄地でした。タンウを40キロメートル山へ入った700軒ばかりのミョラの町からさらに8マイルほど歩いた25軒ほどの村に、私たちはキャンプをして植林の仕事をしていました。この地方はピーナツを栽培して油を搾り、サトウキビで製糖し、竹で紙を生産し、そして竹で家を造って生活しているところでした。

私の最初の仕事は、500から700エーカーの地域に新しく森を創るために木を植える仕事でした。11月ごろから翌年4月まで山の不要な木を伐採して、それを焼いてそのあとにチークなどを植えました。この地方では、伝統的に「タウンヤ」と云う焼畑システムで作物を栽培していました。私たちは、大規模に森を焼きイギリス流の方法で新しい木の苗を育て植林するプロジェクトを行っていました。その頃は、政府のプロジェクトと民間の業者がともに木材の伐採をしていました。普通、伐

つても良い木のサイズは、人の背丈4・6フィートの位置で円周6・5フィート有る木となっていました。私たちの植林の仕事では、これを無視して全ての木を伐りました。

チークは高級家具、ヒンガドは高級建築材、バダウは家具の素材として使います。私たちは、一年間で450エーカーの土地の木を全部伐つて、新たにチークを植え、50エーカーの土地にヒンガドの苗木を植えました。1エーカーに825本のチークの苗木を植えると、40年間で40本のチークが生産できる計算でした。ほかに約3ヶ月間、紙の原料となる成長が早いといわれた「ユークリプ・ユーカリ」も700エーカーの土地に植林しました。同僚は10名ほどで、労働者は100名ほど働いていました。また、籐製品を外国に売ることを考えて、籐の生産を増やすよう種類の違う太い籐も植えました。しかし、とても製品になるようなものはできませんでした。

その地域はマラリアの多い所で、私もマラリアにかかりました。村は貧しく、医者などはいませんので大変です。私のいた間にも病気になる人を車で町まで運んだり、三人も子供が亡くなっていくのを見ました。

1975年ころからビルマ社会の様子が変わって来て、世の中には不正が横行していることを私は感じていました。私は、自分の仕事に誇



りが持てず、2年間働いたこの仕事を止めることにしました。その訳は、私の好きな森の勉強が、森を壊すことに使われてしまったことでした。軍のキャンプから軍人がやって来て勝手に木を伐採したり、盗伐されたこともありました。近くにはその製材工場があるような状態で、私の力では何も出来ませんでした。また、タンウのオフィスの上司で同じ大学の先輩チョ・モウが、次々と軍政が発行する75・45・35などのチャット紙幣を使い不正にお金を自分のものとしていたので、そのことを私は公にしました。すると陰湿ないじめが2ヶ月間続きました。また、彼は政府から配給されたお米を不正に売りさばき、労働者や農家からはさらにお米を受け取っていました。そんなことばかりの二年間で、私はこの村や森を壊すために仕事をしていたようにしか見えなくなりました。

1988年3月に、私は仕事を辞めラングーン（ヤンゴン）の家に帰り、家の仕事を手伝っていました。その頃からラングーン大学ではビルマの民主化を求める学生のデモが起きました。私は、森林局の同僚や大学の同窓生といっしょに元学生組織で、民主化要求のゼネストを計画しました。8月8日には、ビルマ史上最大のデモが起こりました。私は学生達と連帯し、ラングーン中央病院を拠点にデモ行動をしました。それまでの政権が倒れ、暫定政権の樹立や民主化への模索

がなされました。しかし、9月18日に軍事クーデターによって、夜間外

出・集会禁止令が出されて、学生や民主化組織は逮捕・弾圧され、多く

の活動家はタイ国境に逃れました。私は逃れた学生組織への送金や同志

の活動家を国境へ逃す役割を続けていました。89年7月には、軍事政権

はNLD（国民民主連盟）のアウン・サン・スー・チー（注）を自宅軟禁し、

国名をミャンマーと変えました。90年5月によく総選挙が実施され、

NLDが圧勝しましたが、軍政は政権の移譲を拒絶し、民主化勢力へは

ますます弾圧が厳しくなりました。その秋、私は大学の恩師ウ・タン・

ミン教授から軍に逮捕される危険があると知らされ、当時日本に留学し

ていた弟を頼り、母国ビルマを逃れ日本に渡る決心をしました。11月14

日にタイを経由して成田に到着しました。その時から滞日13年となり、

私は41才になりました。現在は、日本で出会った同じモン民族の女性と

結婚して、溶接・塗装工として働いています。

わたしは、昨年6月に名古屋の入国管理局に「難民認定申請」をし

ましたが、この4月に不認定の処分を受けました。現在は「不服」申請し、

不認定の異議申し立てをしています。

早く母国ビルマに民主的な政権が樹立されることを日本の地から願

っています。ビルマで私が仕事をした森のことも気がかりでなりません

。おそらく、Wild Forest／荒れ果てた竹藪になって、森の動物も川

の魚もいなくなっているのではないかと心配しています。

ミン・ティン（滞日13年）

（このレポートはミン・ティンさんに2003年5月24日に大隅良務  
がインタビューして、まとめたものです）

（注）：アウン・サン・スー・チー＝彼女は、二度・8年間にわた  
る自宅軟禁から、昨年5月6日に解放されたばかりでしたが、今年5月  
30日に、ビルマ北部Day Inを遊説中の彼女やNLDメンバーらが、  
軍政の仕組んだ襲撃を受け、その上、拘束されてしまいました。人権団  
体の情報では、死者は70名を超え、200名以上のメンバーが逮捕され  
ました。スー・チーさんも負傷し、悪名高いインsein刑務所に収容さ  
れました。のちに手術を受けたと伝えられましたが、容態などは発表さ  
れていません。また、面会すら許されていません。

## 木曽川流域で今起きていること①

### 東海環状自動車道工事トンネル掘削残土によるため池汚染事件

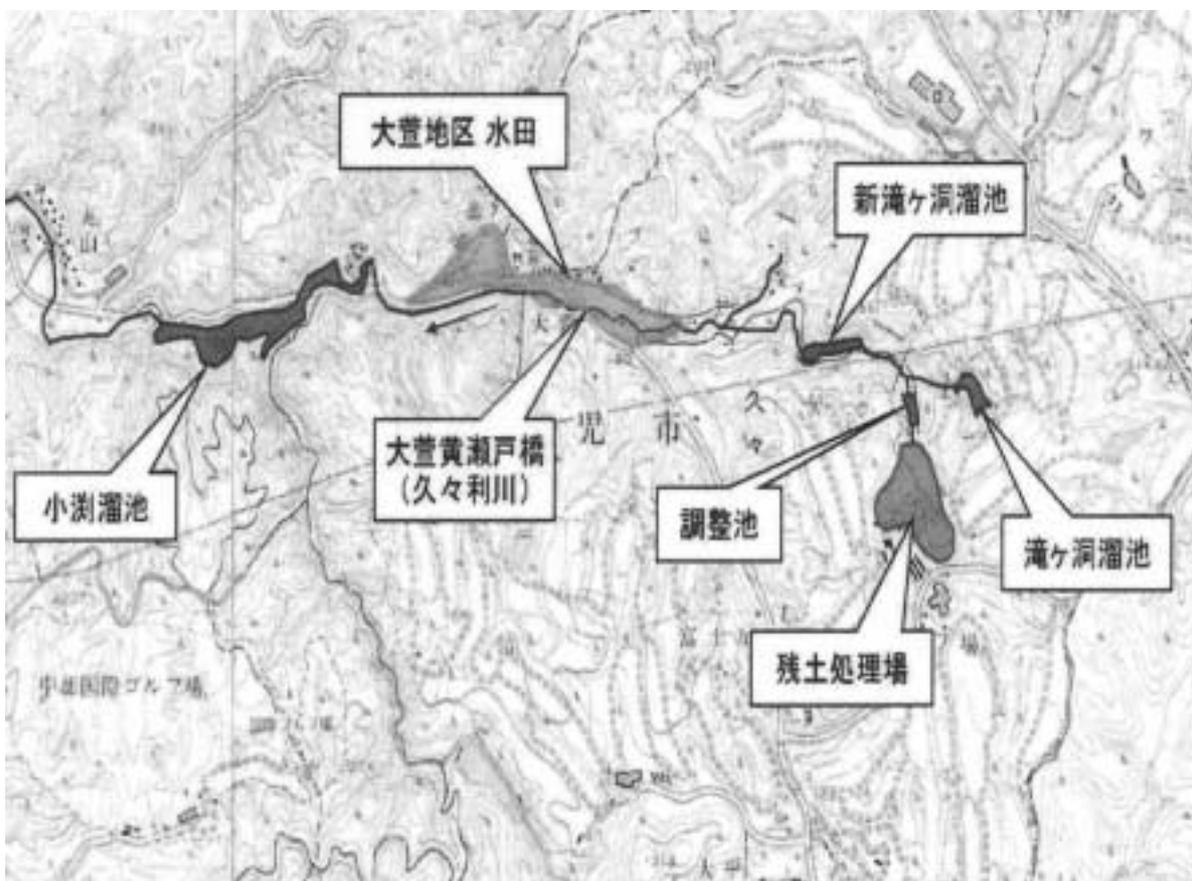
糸土 広

可児市久々利地区、かつて空襲を避けて三菱航空機工場を移転するために巨大な地下トンネルが掘られた地域である。過酷な植民地政策で故郷を追われたり、強制連行されたりした朝鮮半島の人々がその工事に従事した。その久々利の新滝ため池で昨年4月、つり大会のために放流されたマスが大量に死んだ。原因は、ため池の上流に造られた国土交通省の残土ストックヤードから浸みだした硫酸や重金属を含んだ酸性の水であった。そこには建設が進む東海環状自動車道のトンネル掘削残土が約90万トンが運び込まれていた。ストックヤードとは名ばかりで、富士可児カントリークラブの谷間を利用した残土埋め立て処分場だったのである。

汚染した水は久々利川を経て可児川となり、やがて木曽川へと流入する。木曽川流域で起きていることの第1回として報告する。

#### 美濃帯（みのたい）

大山市から可児市、御嵩町にかけて地域には、砂岩やチャートを主とした美濃帯と呼ばれる地層が分布している。この地層には黄鉄鉱などの硫化鉱物が含まれており、これらが掘り起こされると酸素を含んだ雨水と接触し、硫酸が生成して溶け出す。生成した硫酸はカドミウムや亜鉛



などの重金属類を溶かしだす。この化学反応が起きて、ストックヤードから新滝が洞池へ流入した硫酸酸性で重金属類を含んだ浸出水は、ため池の水を酸性にし、まるで入浴剤のような青白色に変えた。

美濃帯を掘り起こして汚染が起きたのは今回が初めてではない。今から30年前、1973年に犬山市池野地区、楽田地区、羽黒地区でイネが黄色くなる現象が起きたことで発覚した大規模な汚染事件が起きている。原因は碎石場であった。美濃帯を掘り崩して、細かく砕いてビルなどを造る骨材として売られていた。碎石場内には細かく粉砕された岩屑が散らばって堆積し、それに雨が降ると先に述べたような化学反応が起きて、硫酸酸性で重金属を含んだ水が農業用水や入鹿池に流れ込み、やがて水田へと流入していたのである。水田土壌は銅やカドミウムで汚染



され、産米からはカドミウムが基準値を超えて検出されることとなった。

1978年、土壤汚染防止法に基づく汚染地域指定を受け、約10億円の国費をかけて38ヘクタールの除染対策（作土の入れ替え）が実施された。1992年に指定地域は解除されたが、原因者である碎石場の営業が続き、排水対策も不十分であるところから、行政による監視調査が今なお続けられている。

第2次世界大戦中は、美濃帯で銅やマンガンを掘るための鉱山もあつたくらいである。こうした問題のある地域を、こともあろうに国土交通省が直営で行った道路建設工事で安易に掘削し、何の対策もとらずに残土を谷間に埋め立てた罪は大きい。近年重要視されている地理学情報システム(GIS)を主管しているのは国土交通省自身ではなかったのか。

#### 可児市の責任

可児市は、国土交通省のトンネル工事に地元自治体として便宜を図つたということなのであるが、富士可児カントリーと交渉して谷を借り受け、残土受け入れのための造成土木工事を行っている。国土交通省多治見工事事務所長との間に交わされた覚え書きによれば、残土1トンあたり1170円が可児市に支払われることになっている。これではまるで産業廃棄物処理業者と同じである。予定通り95万トンが搬入されれば、11億1150万円となる。何事もなければおいしい話だったのかもしれない。

ストックヤードというのは、残土の仮置き場である。このために地元住民に対する説明会が開かれていなかった。市議会でもほとんど論議されることなく終わっている。ところが、実態は仮置き場ではなくて、永久的に残土を埋め立てる施設として造成され、運用された。これではまるで一種の詐欺である。

汚染が発覚してから市議会で追及を受けた時、土木局長は「ストックヤードと英語で言った方が体裁がよいと思っただけで、実質ははじめから埋め立て処分場であった」と答弁している。このふざけた答弁にたいして、質問した議員が納得しているというのも奇妙な話である。

国土交通省には、本来汚染を事前に予測して対策をとるべきであった

のにとらなかつた責任があり、可児市には無知が引き起こした汚染に対する責任がある。汚染発生当時は市民派議員である小川富貴さんがいて、市当局を追及したり住民に情報を提供する役割を担って大活躍された。しかし残念なことにその後の選挙で惜しくも次点で落選され、現在はこの事件をまじめに追及する議員が一人もいない状況となっている。

#### 全国で発生している類似の汚染事件

硫化鉱物地帯での道路建設工事などに伴う汚染事例は全国で発生している。東北自動車道路の八甲田工区とか北海道のいくつかの地域などでの事例に関して、各種の学会や研究所報などでも発表が行われつつある。最近では、岐阜県高富町地内の県道工事で発生した残土からヒ素を含んだアルカリ性浸出水が環境中に流れ出たことが報じられており、硫化鉱物以外にも地質由来の汚染が起きることが明らかになった。もともとの地質の中に含まれていたとはいえ、掘り起こさなければ何も起きなかったわけで、寝た子を起こしてしまった工事そのものが汚染をおこした下手人である。

#### 緊急対策

何ともお粗末な対策であった。国土交通省は、汚染した浸出水を汲み上げて処理をする簡単なプラントを設置したが、単に硫酸を中和して木



炭と粗朶（そだ）を入れた槽を通して放流するだけだったのでカドミウムなどの重金属はそのまま流れ続けた。どこかの御用学者のアドヴァイスで始めたらしいが、重金属に対して木炭と粗朶など何の効果もない。

可児市も魚が大量に死んだというのに、学校への連絡も遅れて、危険な川で子供が釣りをしたり遊んだりしないように指導するまでに1ヶ月もかかっている。さすがに新滝が洞池の水を水田に引いている大萱地区の田植えだけは中止になった。

7月も中頃になってからようやく、浸出水処理プラントが重金属対応の本格的なものになった。事件発覚以来約3ヶ月間、それ以前も含めれば汚染水はかなりの期間たれ流され続けたことになる。とにかく危機管理がなっていないのである。

#### 対策協議会

国土交通省と可児市が合同で、対策協議会を発足させ第1回会合が7月24日に開催された。自治会や水利組合、漁協などの役職者、一般住民代表、国土交通省工事事務所長と可児市助役などに専門委員が6名の構成である。協議会の議事は全面公開で、議事録要旨もホームページに公表されるというところと、専門委員のうち住民推薦委員が1名入っているところが今風である。情報公開もここまでできたかと感心するが、しかし、形だけは今風でも役人の体質と御用学者のでたらめぶりは全く変わっていない。

とりわけ専門委員で協議会委員長に事務局指名された植下協（名古屋大学名誉教授）はムチャクチャな男で、学者と学問をふりかざして平気でウソを言う。「もともとこの地山にあったものですから、汚染とは言えない程度のもんです。上に土をかぶせてやればもとの地山に戻ります。」などということをややシヤシヤと言っている。

ける。要は事務局である国土交通省の報告や提案を丸飲みして押しつけ、面倒な議論が始まったら時間がなからと議論を切って先に進めるの自分の仕事だと思っているようなやからである。こんな調子で何十年もあちこちの審議会で「御用」をつとめてきたらしい。

御用学者の跳梁に戸惑いながらも、地元の要求は汚染土完全撤去である。これに対して国土交通省（可児市は単なるついて回りに終始）は、覆土を提案してきた。粘土のような水を通しにくい土でストックヤード上面を覆い、雨水がしみ込まないようにすれば汚染浸出水は止まるはずだというのが根拠である。しかし、この工法を提案するまで行われた30本近いボーリング調査やボーリング孔から採取された地下水の水質分析結果は、ストックヤード内部での複雑な地下水の挙動を示し、また汚染残土と雨水や地下水との反応も一筋縄ではいかなないことを示している、上面からの雨水を抑えるだけで汚染が止まると結論するにはあまりにも不十分なものであった。調査や結果の解析を行ったコンサルタントの能力にも大きな疑問符を付けざるを得なかった。

事件発覚以来1年を経過して、東海環状自動車道路工事終了を1年後に控えた国土交通省にはあせりが見られる。昔ながらの地元有力者、地元選出市議などを裏で抱き込んで取引を始めつつあるようである。

### 久々利の「3人娘」

対策協議会で鋭い質問を投げかけて事務局や御用学者をあわてさせる女性委員が3人いる。大変な勉強家で、分厚い資料をしっかりと読んできて、凜として正論を展開する。実に気持ちがいい。それにひきかえ、男性委員の多くは終始無言である。

久々利地区には問題となつていいる富士可児カントリークラブ以外にもいくつかのゴルフ場が立地している。これらのゴルフ場が開発される時に、取引条件として道路や簡易水道を獲得してきたのが久々利の男衆である。町内のどぶ掃除などで女の人が出た家には、半人前しか人をださなかつたということ、残り半人分の日当を払わせるような土地柄である。女衆はゴルフ場に撒かれる農薬を心配しながらも、男衆のやり方を忍従してきた経緯がある。今度こそは、暮らしの安全を最優先課題にして、決して妥協しないぞという意気込みが伝わってくる。頑張



れ〜！ 3人娘。

今後の見通し

国土交通省は、1年後に迫った工事終了までには幕引きをしたがつて

いる。手切れ金を払って、可児市に全部まかせて撤退する交渉もはじめているようである。そのためには、汚染土全量撤去には応じたくないらしい。もともと、応じようにも汚染土の引き取り先が見つからない可能性もある。90万トンというのは、寿和工業の小和沢処分場計画の100万トンに近い巨大な数字だからである。

とりあえず、ストックヤード上面の4分の1にあたる1万平方メートルに覆土工を行い、その後の浸出水の量と水質の変化を調べ、それで方向性が出れば全面覆土に踏み切りたいようである。しかし、ストックヤードに浸入する水は雨水だけではない。横方向からの地下水が半分以上を占めているようである。したがって、上面の覆土で問題が解決する可能性は低い。かといって、地下水を抑える工事はかなり難しい。

もたもたしているうちに、梅雨シーズンを迎えてしまった。現状の処理プラントも常に最良の処理を続けられる保証はない。現に、今年に入って大風が吹いた日に電源ラインが切れて停電となり、処理施設が停止したまま、浸出水がオーバーフローして調整池に流入するという事故が起きたばかりである。ここは腰を据えて、全面撤去の方策を追求した方が将来に禍根を残さないと思うのだが…

(一社)水トラスト事務局

水源の森・みたけに来ませんか

定例作業日：毎月第2土曜日

午前10時御嵩町中公民館集合

名鉄広見線御嵩口駅東徒歩数分

小雨決行

持ち物

…長袖、長ズボン、帽子、軍手、

山歩きのできる靴、昼食、水筒

連絡先

…中村 0574(64)0216

大沼 052(779)4291



特定非営利活動法人NPO

みたけ・500万人の木曾川水トラスト

〒456-0034

名古屋市熱田区伝馬2-28-14 名古屋働く人の家気付

TEL & FAX 052-682-4737

郵便振替 00800-9-64810

URL <http://homepage3.nifty.com/mitake/>